

BEST AVAILABLE COPY

(1B) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-126470

(P2000-126470A)

(43) 公開日 平成12年5月9日(2000.5.9)

(51) Int. CL.

識別記号

F I

サーチコード(参考)

A 6 8 H 9/02
3/06
9/00

A 6 8 H 8/08
3/06
9/00

2 C 1 5 0

Q

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平10-299814

(22) 出願日

平成10年10月21日(1998.10.21)

(71) 出願人

598051716

有限会社ビギン

埼玉県戸田市下前2-11-4-705

(72) 発明者

安藤 一 真

埼玉県戸田市下前2-11-4-705有限会

社ビギン内

(74) 代理人

100089784

弁護士 中川 周吉 (外1名)

Fターム(参考) 2C150 AA02 BA41 BC06 CA01 CA02

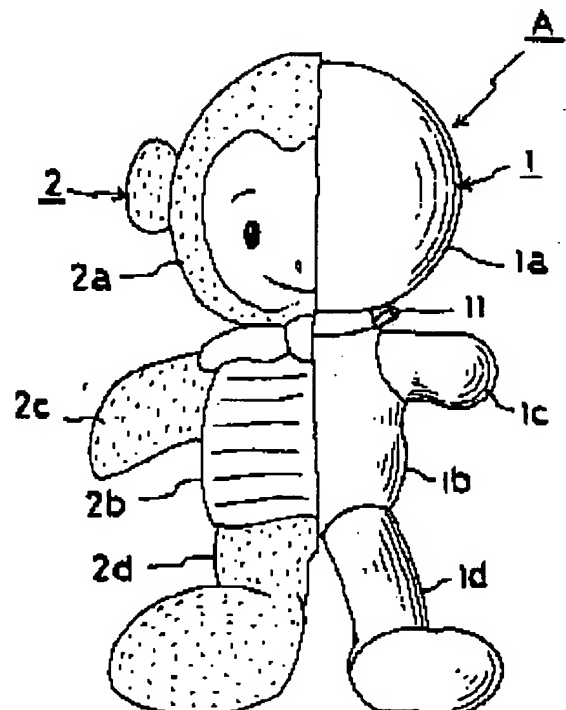
CA03 CA04 DA21 DE03 DE12

(54) 【発明の名称】 縫いぐるみ

(57) 【要約】

【課題】 本発明の目的は、保管する際に折り畳んで容積を小さいものとすることができ且つ水場にも持ち込むことが出来て洗濯も可能な縫いぐるみを提供することを目的とする。

【課題手段】 上記課題を解決するため、本発明に係る縫いぐるみAは、空気の注入排出口11を有し、内部に空気を封入して形を保ち、空気を排出して萎ませることが可能な樹脂製の本体1と、該本体に被覆して縫いぐるみの外見を構成する縫いぐるみ皮2とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 空気の注入排出口を有し、内部に空気を封入して形を保ち、空気を排出して萎ませることが可能な樹脂製の本体と、該本体に被覆して縫いぐるみの外見を構成する縫いぐるみ皮とからなることを特徴とする縫いぐるみ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、空気を抜くことによってコンパクトに折り畳め且つ水に浸かった状態で遊ぶことができる縫いぐるみに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の縫いぐるみは、布で動物等を模した袋状の縫いぐるみ皮を作り、その縫いぐるみ皮の中に綿やスポンジなどのスタッフィング材を詰めることにより構成していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、一般的に、縫いぐるみは嵩張り、大型のものを買い求めたり、小さいものでも多くを集めると、容積を占有してしまうという問題点があった。特に、押し入れなどに収納しておく場合には、その収納スペースの多くを占有してしまうために、必要がなくなると保管されず、廃棄されてしまう場合が多かった。

【0004】また、他の従来の縫いぐるみの欠点として、そのスタッフィング材が水を吸ってしまうことから、風呂場やプールなどの水を扱う場所には持ち込むことができなかった。また、同様の理由から、洗濯も難しく、子供のアレルギーの原因ともなるハウスダストの問題から敬遠さえる傾向もあった。

【0005】そこで、本発明は、保管する際に折り畳んで容積を小さいものとしてでき、且つ水場にも持ち込むことが出来て洗濯も可能なぬぐるみを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明に係る縫いぐるみは、空気の注入排出口を有し、内部に空気を封入して形を保ち、空気を排出して萎ませることが可能な樹脂製の本体と、該本体に被覆して縫いぐるみの外見を構成する縫いぐるみ皮とを有することを特徴とする。

【0007】

【発明の実施形態】本実施形態にかかる縫いぐるみの実施形態を図1乃至図2を用いて説明する。図1は一部縫いぐるみ皮を取り払った状態の縫いぐるみの正面図、図2は縫いぐるみの組み立て工程の説明図である。

【0008】図1及び図2に示すように、本実施形態の縫いぐるみAはサルの人形であって、人形の形を保つ本体1と、その外側に被覆する縫いぐるみ皮2とから構成される。

【0009】本体1は人型のものであって、頭部1a、胴部1b、腕部1cそして脚部1dから構成されている。この本体1は、ビニールシート材を立体に構成して製造された、いわばビニール風船であって、頭部1aと胴部1bとの間に本体内部へ空気注入排出口11を取付けて構成される。

【0010】そして、空気を本体1の内部に空気注入排出口11から吹き込むことにより所定の形（本実施例の場合、人型）を保つことができ、反対にその空気を空気注入排出口11から抜き出せば萎み、簡単に折り畳むことができる。

【0011】縫いぐるみ皮2は、握人化したサルをデザインしたものであって、耐水性布により作られた袋状体である。縫いぐるみ皮2は大きな保水性を有しない、例えば薄手のタオル地やフェルト地が望ましい。この縫いぐるみ皮2は、本体1の構造に付合せて、頭部2a、胴部2b、腕部2cそして脚部2dから構成され、頭部2aと胴部2bとの間には、ジッパー21aが取付けられた開口部21が形成されている（特に図2(a)参照）。

20 【0012】図2を用いて、上述した本体1と縫いぐるみ皮2を合体させ、縫いぐるみを組み立てる作業を説明する。

【0013】図2(a)は、本体1と縫いぐるみ皮2を分離させた状態を示す図である。この状態から、縫いぐるみ皮2の裏面のジッパー21aを開いて開口部21を大きく開け、本体1をこの開口部21から挿入する。

30 【0014】このとき、本体1は挿入しやすいように、空気注入排出口11から空気を送り込んで膨らませておく。そして、本体1の脚1dを、開口部21を通して縫いぐるみ皮2の内部に入れ、縫いぐるみ皮2のそれぞれの脚2dに挿入する。そして、順次、本体1の胴部1b、腕1cを開口部21を通して、縫いぐるみ皮2の内側へ入れ、それぞれ胴部2b、腕1cの内部へ挿入する。

【0015】最後に、本体1の頭部1aを開口部21にくぐらせなければならないが、膨らませた状態でこれを通らない場合は、一旦空気注入排出口11を開けて頭部1aを萎ませ、萎んだ頭部1aを開口部21へ通して、縫いぐるみ皮2の頭部2aへ挿入する。

40 【0016】そして、図2(b)に示すように、開口部21から露出する空気注入排出口11から再び空気を注入して本体1を完全に膨らませ、最後に、図2(c)に示すように、ジッパー21aを閉じて、縫いぐるみAを完成させる。

【0017】反対に、縫いぐるみAを使用せず、保管しておくときは、空気注入排出口11から本体1の空気を抜き、萎ませた状態として、これを畳むことができる。また、濡れた縫いぐるみ皮2を乾かす場合、またはこれを洗濯する場合は、萎ませた本体1を縫いぐるみ皮2の開口部21から引き抜いて、縫いぐるみ皮2のみで作業を行

50 う。

【0018】以上説明したように、本実施形態の縫いぐるみAによれば、ビニール人形である本体1とこれに被覆する縫いぐるみ皮により構成したことで、空気を抜いた収納状態では、折り畳むことが出来て保管スペースを取らないという効果を有する。

【0019】また、本体1は水に浮きかつ水を吸わないため、風呂やプールでの使用が可能となり、縫いぐるみの使用場所範囲を広げることができる。さらに、縫いぐるみ皮2だけを分離すれば、これを洗濯することも可能であって、清潔な状態を保つことが出来る。

【0020】加えて、本体1に、他の縫いぐるみ皮、例えば擬人化されたウサギや猫などの縫いぐるみ皮を被覆することもでき、この本体1を共用することでコストを抑ええることもできる。なお、この場合、本実施形態の人形のほか、四足動物型や鳥型等の基本的な形状を数種類用意すれば、さらにバラエティーに富む縫いぐるみをより手間をかけずに制作することができる。

【0021】なお、本実施形態では、本体1を頭部1a、胴部1b、腕部1c、脚部1dを連続させ、一つの空気注入排出口11を設けたが、例えば頭部と、その他といった組み合わせや、頭部及び胴部と、腕部と、脚部というような組み合わせで独立した複数のコンパートメントを設け、それぞれのコンパートメント毎に空気注入排出口を設けてもよい。

【0022】さらに、図3に示す本体100のように、頭部101、胴部103、腕部104、脚部106を独立した部品とし、これを個別に、上記実施形態で示したような縫いぐるみ皮に挿入して縫いぐるみを構成しても良い。この場合、大きさや長さの違うオプション、例えば頭部102、腕部105、脚部107を予め用意することにより、これらを組み合わせることにより、簡単に多様な形状の縫いぐるみ皮に対応させることができる。

【0023】また、上記した構成とすれば、各部品間の関節部の自由度が大きくなり、縫いぐるみに、より軟らかなポーズを取らせることが出来る効果も有する。なお、各部品はそれぞれ空気注入排出口を有しており、空気を抜いて萎ませれば、上記実施形態と同様に場所をと

らないで保管できるという効果を有する。さらにまた、各部品をひもなどで連結する構成としてもよい。

【0024】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の縫いぐるみによれば、本発明は、本体の空気を抜くことによって萎ませることができ、保管する際に折り畳んで容積を小さいものとする事で収納に便利な縫いぐるみとなる。

【0025】また、従来の、綿等のスタッフィング材を用いる縫いぐるみと異なり、合成樹脂の風船状の本体を有する本発明の縫いぐるみは、風呂やプールなどの水場にも持ち込むことが可能となり、ぬいぐるみの使用範囲を広げることができる。

【0026】さらに、縫いぐるみから本体を取出せば、縫いぐるみのみを洗濯することができ、清潔な状態を容易に保つことが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施形態にかかる縫いぐるみの、一部断面正面図である。

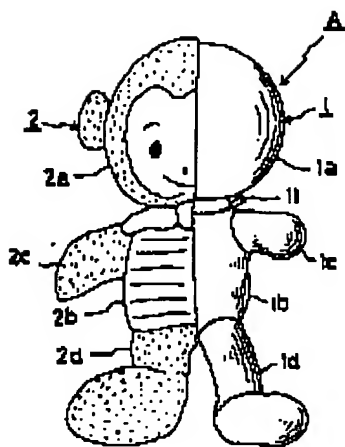
【図2】同縫いぐるみの組立て方法の説明図である。

20 【図3】本体の他の構成例を示す説明図である。

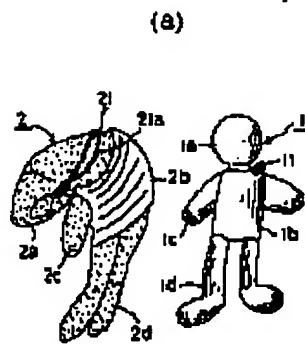
【符号の説明】

- A …縫いぐるみ
- 1 …本体
- 1a …頭部
- 1b …胴部
- 1c …腕部
- 1c …腕部
- 1d …脚部
- 11 …空気注入排出口
- 2 …縫いぐるみ皮
- 2a …頭部
- 2b …胴部
- 2c …腕部
- 2d …脚部
- 21 …開口部

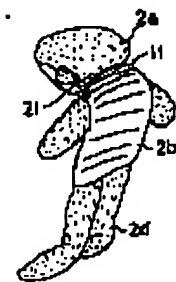
【図1】



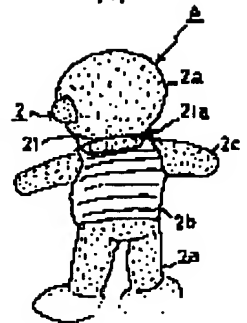
【図2】



(b)



(c)



【図3】

